

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月14日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870301074		
法人名	社会福祉法人 欣水会		
事業所名	グループホーム だんらん	ユニット名	なごみ
所在地	〒300-0815 茨城県土浦市宍塚1957番地		
自己評価作成日	平成22年10月23日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年12月2日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>法人理念に基づいた在宅生活と変わらない生活環境づくりに努めている。 身体状況、生活習慣を把握し、個別日程表を作成することでその人らしい生活を送ることが出来ている。 ボランティアの方の協力も多く、毎月行事などで外出する機会もあり楽しんで頂いている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は田畑や緑が見える環境に立地し、法人理念のもと毎年度の事業計画で基本方針を立て、更に毎月のスローガンを決めて理念の実践につなげている。 利用者一人ひとりの人格を尊重するとともに、一人ひとりの日課表を作成して支援している。 職員は管理者を中心にして、職員同士が協力し合い明るくケアにあたっている。 家族会と職員が協力し、定期的に地域の清掃活動を行っているほか、利用者は地域の運動会や夏祭りなどに参加し、地域の人々と交流を図っている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に提示し、毎朝の朝礼で唱和をして全職員が共有し、意識を高めている。何かの問題が生じた時は、法人理念に立ち返りどうすべきかを考えるよう指導している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の空き缶拾いを月に一度実施している。納涼祭、バザーなどを通じて地域の方々との交流がある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外出等により、地域の方々と触れ合いながら認知症の方の生活を理解してもらうよう努めている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の希望や、介護相談員の方からの意見を取り入れより良いサービスを目指している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの指示・指導を受け入れやすくする為、事業所に担当者をおいている。疑問点や困ったことは、すぐに市の担当者に相談している。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」「人権の尊重」について研修を通して、全職員が「どんな事があっても拘束はしてはいけない」という事を理解している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の施設内研修で勉強会を開き、全職員が共通の認識を持つよう努めている。もし、そのような場面を見た場合は、直ちに注意し合える関係を築き、ケアの質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会等を通じて職員の理解を図っている。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込時や契約前には十分な説明をし、同意をしている。また、わからない事や疑問等は、随時受け付け説明している。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付のシステムが確立しており、受け付けた場合は、会議を開き全職員に周知しケア向上につなげている。家族・利用者の方へのアンケートを実施し、苦情をあえて積極的に集めケア改善、向上に努めている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で職員同士、意見交換し運営に反映されている。また、昼休みなどフランクに話が出来る機会を利用し率直な意見を聞くように努めている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設当初より、人事考課制度を導入しており、個々の努力が報われるようなシステムが確立している。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外での研修を積極的に勧め職員個々の質の向上を図っている。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設福祉の協会に加盟して、交流会等に参加し意見交換を行っている。他の事業所の良いところは、どんどん取り入れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始の際、アセスメント、家族からの情報を十分に収集するのはもちろんの事、たとえ認知症があるとしてもご本人の意見に十分に耳を傾け、できるだけケアにつなげられるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始の際、ご家族と十分な話し合いを行い不安を取り除くよう努めている。また、面会の際はできるだけお話しする時間を設け要望や不安点などを引き出すようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援センターや居宅のケアマネージャーとの連携をとり、法人全体で考え何のサービスが最も必要かを見極めサービスを紹介している。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけコミュニケーションをとるように心がけ信頼関係を築けるよう努めている。「介護する側・される側」という意識ではなく一人の人生の大先輩として接している。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	だんらん通信などのお手紙で近況や行事等のお知らせをし、密な連絡を取り合っている。ご家族の意向を取り入れながら、協力し合いより良いケアを目指して実行している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や近所の方の面会も見られる。近所に散歩に出かけ、なじみの人たちと会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブル迅速に対応しストレスや不満の軽減に努めている。テーブルの席なども配慮している。孤立しがちな方には、声かけレクリエーションなどを通じて他の利用者とは関係する機会を増やしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が福祉施設等への面会に行っている。問題が生じた場合など、これまでのケアの方法やその他参考になる情報を伝え支援している。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アンケート調査を行ったり、こちらから積極的に声かけし利用者の「～したい」「～が嫌だ」という声を拾い上げできるだけ尊重している。聞き取りが無理な方に関しては、これまでの生活等を押しはかり職員間で話し合っ て決めている。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に十分なアセスメントを行っている。また、入所後もプライバシーに配慮しながらご家族に情報を提供していただき、これまでの暮らしを把握し、よりよいケアができるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、1日の過ごし方を全員に周知させている。朝礼の申し送りや、申し送りノート活用により、その日の心身状態の把握に努めている。また、日々のかかわりの中での小さな気づきを大切にしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を尊重し、介護計画を作成している。サービス担当者会議を開催し、本人、家族、職員、関係者と十分に話し合いよりよいケアを目指している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入して、情報を共有している。それをもとにしてケアの見直しを図っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体が必要に応じ、支援、協力している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティア(ハーモニカ、体操、尺八、腹話術、ロボットセラピー)の皆さんの協力を得て楽しんでいただいている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も入所前のかかりつけ医の受診をすすめている。また、情報提供や電話での問合せを行い連携している。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づいたことを随時看護師に報告している。また、夜間でも連絡し相談している。それによって、いち早く異常に気づき適切な受診ができています。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、サマリーを作成し情報を明確に伝えることでより、適切な治療を受けられるよう配慮している。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、その段階ごとに支援の方法を話し合い、何処まで可能か見極めている。終末期も同様に家族との話し合いを十分に行い、ケアの方針を決めている。また、それを職員間に周知徹底させチームとして統一したケアを目指している。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急の講習を受けている。また、様々な場面を想定しての対応マニュアルを作成し、職員に周知している。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施している。(夜間想定・火事・水害・地震など)また、法人間での協力体制も確立している。常備食などもいざという時のために確保している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所以前の暮らしや、人格を把握し1人1人にあつた対応を心がけている。特に個人の尊厳に重きを置きプライバシーの確保に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方に対してもいくつかの選択肢を提示し希望や好みをくみ取るよう努めている。決めつけるのではなく、日々のかかわりの中で小さな変化に目を向けるようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間などできるだけ本人の希望に添えるようにしている。食事のペースや衣類の着脱のペースなど、本人のペースを大切に尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の際も本人の意向、好みを聞き、こだわりを大切にしている。化粧品等の購入は、定期的な買い物ツアーにて行っている。また、日々の身だしなみに注意し、気持ちよく生活していただけるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備をしたり、お茶の葉を袋に入れたり出来る事は一緒に会話をしながら楽しく行っている。配膳、下膳もできる方にはいただきテーブル拭きなども手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の好みや、体重の増減などを考え、メニューの工夫をしている。法人内の管理栄養士や医師にも相談し随時調製している。水分量は、チェック表を記入し足りない場合は、ゼリーやお好きな飲み物などで補っている。	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず実施している。声掛け、見守りを行いながら、不十分なところがないようにしている。また、洗面所に常にお茶を用意し、うがいをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	誘導が必要な方は、随時行っている。排泄のパターンをつかみ、トイレでの排泄ができるよう支援している。オムツの使用は、可能な限り避け夜間のみ必要な方だけにしている。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、必ずヨーグルトを召し上がっていただき、便秘予防に努めている。また、季節に合った食物繊維の多い食品をメニューに取り入れている。便秘がちな方には、特濃牛乳を飲んでいただいている。水分摂取は、1日1.5ℓを目安にしている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望にそって対応している。入浴する順番などその都度意向を聞いている。ほとんどの方が、毎日入浴されている。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の生活のリズムで、自由に過ごしていただいている。日中も椅子、ソファ、ベット等自由に移動してゆっくりと休んでいただいている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬について、勉強会を開き、名称、目的、副作用、用法について確認している。誤薬を防ぐ為に、2重3重のチェックをしている。また、本人の状態変化を回診時、医師に伝え服薬調整につなげている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日めくりやテーブルふき、モップがけなど決まった役割を持っていただき、生活に張りをもってもらっている。1人1人にあった楽しみを尊重し可能な限り実現できるように支援している。(カラオケ、散歩の付添いなど)
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、できるだけ散歩の出かけるようにしている。遠くまで行けない方は、日光浴をしていただいている。毎月、行事の中に外出の機会を設け、地域とのかかわりを大切にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	定期的に買い物ツアーを実施し、買い物を楽しんでいただいている。
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	電話、手紙ともに自由にやりとりしていただいている。手紙は、お返事を本人に書いてもらい郵送している。電話は、取次ぎのお手伝いをし直接家族の声を聞いてもらっている。
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用の空間は、毎日定時に掃除をし、常に清潔を保っている。空調にも配慮し常に快適な温度を保っている。また、季節にあった飾り付けや、生花を飾り気持ちよく過ごせるよう努めている。
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	それぞれに決まった自分の居場所があり、落ち着く空間があり落ち着いて過ごしている。
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室内への持込は自由で、お好きなものをおかれている。テレビ、家具を置いている方もおり、家での生活と同じように過ごされている。
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	それぞれの状態、状況に合わせたケアをしている。居室には、手作りのネームプレートを表示し、一目で自分の部屋だと認識できるように配慮している。

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない